

# 夏秋雨よけキュウリの高温抑制と 収量確保のための遮光資材の設置方法

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

## 1 部門名

野菜－キュウリ－環境調節

## 2 担当者名

笠井友美

## 3 要旨

近年、施設キュウリでは高温、乾燥による生理障害の発生、収量の低下が課題となっており、産地では高温抑制技術として遮光資材の導入が進んでいる。そこで夏秋雨よけキュウリに適した遮光資材の設置方法を検討したところ、定植後から遮光資材を施設屋根部分に外張り展張し、梅雨時期に一度撤去した後、再度展張する方法が適した設置方法であった。

(1) 遮光率 20%の遮光資材を外張りすることで、施設内の気温が 30℃以上または 35℃以上となる積算時間は減少する (図 1)。

(2) 遮光率 20%の遮光資材を、定植後から常時展張すると収量は 2 割減少するが、遮光資材を梅雨時期に一度取り外し、梅雨明け後に再度展張することで、慣行と同程度の収量が確保できる (図 2)。

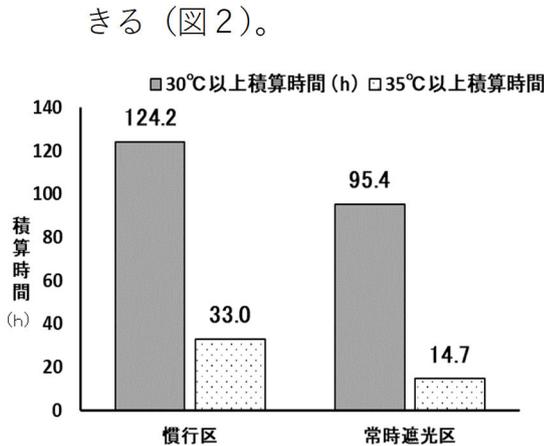


図 1 施設内の積算温度の比較 (2020 年)

※測定期間：8/7～8/31

※遮光資材はワリフ明瞭 20 を使用した

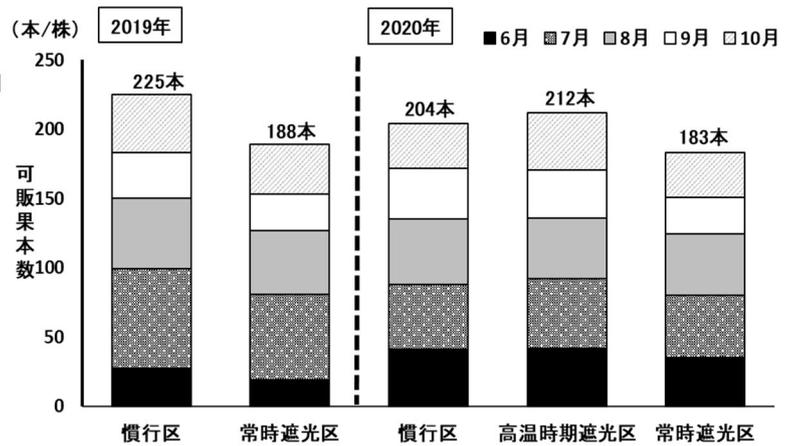


図 2 遮光資材が収量に及ぼす影響

※遮光資材展張期間：(2019 年)5/15～9/30

(2020 年)常時遮光 5/8～9/7、高温時期遮光 5/8～6/7、8/6～9/7

※定植日及び収穫期間：(2019 年)定植 5/15・収穫 6/11～10/31

(2020 年)定植 5/5・収穫 6/3～11/2

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和元年度～令和 2 年度

(2) 研究課題名 主要野菜の安定生産技術の確立 (施設キュウリ栽培の安定生産技術の確立)

## 5 主な参考文献・資料

(1) 夏秋トマト栽培における低遮光率資材による高温対策(平成 28 年度 参考となる成果)